

特定非営利活動法人

明るいシステム倶楽部 会報8月号

令和5年8月1日

(2023年)

今夏は梅雨が明ける前から猛暑が続いており、更に本格的な夏を迎えた中、熱中症を含めて各人の体調管理が大変ですね。環境省の情報では、「暑さ指数」なるものがあり、熱中症の要因としては気温だけでなく湿度や日射・輻射等の周辺の熱環境も取り入れた指標が提唱されているようです。今後は自らの体調管理の上で、日々の最高気温だけでなく、こうした「暑さ指数」にも注目したいものです。

第61回 明るいセミナーの開催;9月4日(月)14時 ~16時30分

前回に引き続き、今回も昼間の開催を予定しており、ぜひ多くの方々にご来場いただきたいと思っております。なお、内容の概要につきましては、別紙ちらしをご参照下さい。

令和5年度の主な事業計画について

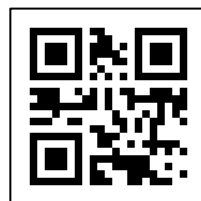
去る6月21日の通常総会の開催結果を受け、11月頃予定の「明るい企業対抗運動会」、年明けの「明るい社長会」に加え、会員の皆様のご意見を伺いながら、当倶楽部会員同士のより密な日常交流を目指す「月例会」的なものも企画できればと思っております。

< 8月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 8月号
- ② -「第61回明るいセミナー」のちらし
- ③ 年会費納入のお願い(該当者のみ)

明るいシステム倶楽部

ホームページ



< 当倶楽部の夏季休暇のお知らせ >

- ・実施予定期間; 8月14日(月) ~ 17日(木) ですので、よろしくお願いたします。

< 8月以降の主な活動予定 >

8/5(土)	気楽な ZOOM サロン(32)	当倶楽部会員専用の交流の場です	20:00~21:30
8/23(水)	役員会議(37)	今年度事業計画の具体化等	13:30~14:40
8/23(水)	明るいシステム検討会議(20)		15:00~16:00
<u>9/4(月)</u>	<u>第61回 明るいセミナー</u>	大阪産業創造館4階イベントホール	14:00~16:30

AKS 市民大学 (ZOOM 形式)・・・開催する曜日に一部変更がありますので、ご留意下さい。

8/9(水)	菊池教室(31)	「感性を育む和学講座、古事記」	20:00~21:30
8/22(火)	柴原・松居教室(24)	「みんなで考える明るい職場」	20:00~21:30
8/26(土)	宮崎教室(35)	「あっ！と驚く問題解決法」	20:00~21:30

**“たったひとりでしかない自分を、たった一度しかない一生を、
ほんとうに生かさなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか”**

明るいシステム倶楽部会員 黒田 能弘 (くろだ・よしひろ)

山本有三の小説『路傍の石』で、悪さをした主人公を教師がさとす言葉だ。と、新聞の記事にあった。80歳になるわたしが、“そうだよな”と深くうなづく瞬間でした。

このところ、わたしは「新・終活セミナー」を各所で開催しています。旧来の「終活」は、葬儀会社が展開したこともあって、少し暗いイメージがありました。「終末期」の意思表示としてエンディングノートを書きましょう。葬儀の予約をしておきましょう……。遺族が困らないように、生前に準備・用意しておきましょう……。と、確かに大事なことであります。

が、わたしとしましては、むしろ終末期に至るまでの「心がけ・心構え・覚悟・生き方」といったものをこのセミナーでは強調しています。「老化」ではなく、「朗化」の気分とし、「高齢者」ではなく「幸齢者」でありたいと望むところです。そして、なお成長し、成熟し、今を生き生きと生きるための「終活」としたいのです。

これからの終末期に向かう諸々の悩み・不安、病気や介護、財産管理、死後の手続きが必要になりましょう。「まだ元気だから、もう少し後になってからでいいや……」と先延ばしにしている人も多いのではないのでしょうか？ でも健康でいられる時間は、そう多くは残されていません。と、他の「終活セミナー」の講師の人たちは、シニアの方々を急き立てます。そこには、「前頭葉への刺激・ゆとり・成熟さ」がありません。むしろ、「今」が大切なのではないでしょうか？ わたしの「新・終活」は、後になってからではなく、今からのスタートなのです！

この「新・終活セミナー」は、講師自身が80歳であり、しかも独居朗人でもあります。病気や手術、うつ病の体験者でもありますので聞いてくださる方々の心配事が大いに理解できるのです。そして、「生・老・病・死」の四苦についてその解消法と、法律的な支援について学習していただいています。実はいま、「ひとり暮らし」の方々が急増しているのです。これは、65歳以上の高齢者だけではなく、50代・60代のひとり暮らしの人たちもとても多いのです。「孤立死・孤独死」といった現況が社会問題となっていることはご存じでしょう。

地域に生きるわたしたち幸齢者が小さな社会貢献をしなければならない喫緊の課題です。

表題に掲げましたのは、そんな「新・終活セミナー」の講師として、生きていかれる幸齢者の「心がけ・心構え」の一環として、わたし自身にも言い聞かせ、皆さまにお伝えしたい言葉でもあります。再掲します。**“たったひとりでしかない自分を、たった一度しかない一生を、ほんとうに生かさなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか”** とともに学びたいと思います。

「新・終活」アドバイザー兼NPO法人高齢者・障がい者後見人の会 代表

◆西国三十三所札所巡り旅 (12) 西国 第 11 番札所 准てい堂 (醍醐寺)

深雪山 上醍醐・准てい堂 (京都市伏見区)

本 尊： 准てい観世音菩薩

明るいシステム倶楽部会員：阿久根 芳臣

行 程：大阪市内から 54 k m (阪高、近畿道、第二京阪道、新十条通、大石道、醍醐道)

先回の第 10 番札所の“あじさい寺”として有名な「三室戸寺」から 7 キロほど北上した処にある醍醐の山上から山麓にわたって八十を超える堂塔伽藍が立ち並ぶ醍醐寺は、真言宗醍醐派の総本山で、一山全体が世界遺産である。

山上を上醍醐、山麓を下醍醐と呼び、西国 11 番札所は、山上の准てい堂のことを指すが、2008 (平成 20) 年の落雷で焼失した為、現在は下醍醐の観音堂で納経を受け付けている。

だが、とは云うものの体力に自信のある方は山上まで登り是非、醍醐寺の本源を参拝していただきたい。ルートは観音堂を少し上がった処にある女人堂受付から片道 1 時間だそうなので、下醍醐の総門前の駐車場からだと徒歩で 1 時間半ほどか。参拝を日課にしているようなハイカー然とした人達も結構な数を見かけたので、聴くと道幅は広くきちんと整備されているようだ。但し、上醍醐への道は険しく、西国札所のなかでも“随一と云われる難所”なので覚悟は要る。距離にして約 3 キロ、山上の開山堂や如意輪堂まで山道をゆく事になるが、搬入路などの裏道は無いので、この道は歩いていくしかない。

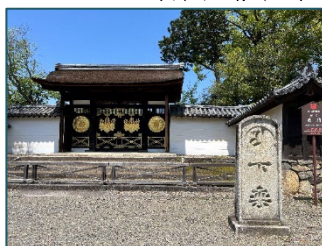
ここ総本山醍醐寺はとにかく広く、先の上醍醐に行かずとも下醍醐だけでも十分時間を取られるので、今日はここだけで終わることになる。実はこの山裏にあたる東側の大津市に 12 番「岩間寺」と 13 番「石山寺」があるので、今晚は大津・瀬田に宿を取って 1 泊 2 日で周ることにしている。昨年の夏に行った那智勝浦の 1 番札所「青岸渡寺」以来の宿泊を伴う巡礼となるが、2 日で三か寺を周れば、それぞれの往復の交通費を勘案すると旅館代もそう高くつくわけでもなく、温泉にも入れて結構いい旅になるだろう。

さて、とにかく広い醍醐寺だがなんと云っても太閤秀吉の“醍醐の花見”が有名だろう。「京都屈指」の桜の名所であり醍醐全山で二千本の桜が植えられているという。他にも伽藍エリアと霊宝館エリアには本堂である金堂や五重塔などの国宝の建物が立ち、薬師堂には薬師三尊像や薬師如来坐像 (いずれも国宝) が並び、三宝院エリアにはこれまた国宝の表書院や秀吉自らが基本設計した庭園 (特別史跡) など重文級の豊富な文化財で満ち溢れていて、時間が足りないほどであり夕方まで目いっぱいだ。

観音堂 (11 番札所)



金ピカの唐門 (国宝)



五重塔 (国宝)



“本物”の循環型社会をつくり出す

明るいシステム倶楽部 理事 柴原 勉

以下、明るいシステム大学の「柴原・松居教室」から好評を頂いた2023年3月の話題をご紹介します。
日本社会だけでなく世界のリサイクル市場を拡大・刷新しようとしているのが株式会社JEPLANです。

今、世界で起こっている紛争の原因は、自分たちの便利な生活にあることは皆、薄々気づいています。
戦争の大きな要因となっている石油などの資源（地下資源）の争奪戦をやめさせて、すべて「地上資源」
でまわる世の中にする――

つまり、本気で「地下資源」の争奪がもたらす紛争を止めることを目指しているのが株式会社JEPLANです。

その株式会社JEPLANを率いているのが、創業者であり代表取締役会長の岩元 美智彦氏。

岩元氏のモットーは、「楽しくやろうぜ！」

リサイクルは重苦しいというイメージから脱却し、とにかくリサイクルは楽しいものだと発信している。
とにかく、楽しい方がいい。そちらの方が世の中が変わるはずだ。

みんながワクワクして参加できるように「楽しくやろう」。

< 株式会社JEPLANの環境保護に対する取り組みについて >

株式会社JEPLANは、持続可能なリサイクル技術の開発と普及を通じて、環境保護に貢献し、廃棄物の削減、
地球資源の有効活用、そして循環型社会を形成することを目指しています。

○テキスタイルリサイクル

独自のリサイクル技術を開発し、古着や廃棄物のテキスタイル廃棄物を高品質な繊維製品に再生する
ことで、廃棄物の削減と「地上資源」の有効活用を実現しています。

○プラスチックリサイクル

株式会社JEPLANの技術により、プラスチック廃棄物を再利用することで、「地下資源」の使用を減らし、
プラスチック製品の生産における「地上資源」の活用を促進しています。

○リサイクル技術の開発

廃棄物を効率的かつ環境に配慮した方法で処理し、リサイクル可能な資源として再利用すること
により、地球資源の持続可能な利用を目指しています。

○持続可能なビジネスモデルの構築

持続可能なビジネスモデルの構築と普及に力を入れており、企業や自治体と協力し、リサイクルによる
環境保護と経済的な成果の両立を実現しています。